

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN 2020-2021

名古屋名南ロータリークラブ

● 承認 / 1991年3月8日 ● 例会日 / 火曜日・PM6:30 ● 例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
● 会長 / 加藤 英敏 ● 幹事 / 江松 央統 ● 会報・雑誌・広報委員長 / 高橋 武士
● 事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

ロータリーは
機会の扉を開く

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinam-rotary.com

2020-21年度 国際ロータリー会長 ホルガー・クナー

第 1357 回

2020年9月29日(火) 晴 第11回

～ 基本的教育と識字率向上月間 / ロータリーの友月間 ～

斉 唱 それでこそロータリー
出 席 会員 56 名 (出席率算入人数 46 名)
出席 37 名 出席率 80.43%
ゲスト 米山奨学生
GONZALES ACHON
JUALY YOKO さん
体験例会 共栄タイヤサービス株式会社
専務取締役 小菅 久幹さん

会長あいさつ

会長 加藤 英敏さん

コロナは収束には向かっているものの、まだまだノーガードというわけにはいかないのかなと思っています。私の会社のほうも、毎日毎日ドアノブなどにアルコールをかけ、体温を朝晩測ってデータを蓄積して、集団感染にならないようにしているというのが現状でございます。気が減入る部分も少なからずあるのですが、こういう時だからこそやれる事はないかという事で、私の会社の中では通常業務を1から見直そうとしている最中でございます。

私共の会社は工場を運営しておりますので、やっぱり労災だとかそういうものが起きやすい環境であります。一時ほどではないですが、1年に2～3回、軽度の労災が起きるのを防止する為に、20年位前から会社の中で就業前に全員揃ってラジオ体操を部署毎にやっております。お手元にあるのは20数年前の資料なのですが、これを配って啓蒙活動をして、ラジオ体操の音楽を聴いてみんなで体操をしております。皆さま、ラジオ体操は幼稚園や小学校でやった事があると思いますが、歴史や効果などはあまり聞いた事がないと思いますので、お披露目したいと思います。

ラジオ体操というのは1928年、ラジオ体操第一、4年後の1932年にラジオ体操第二というのが始まりました。現在は第一・第二体操も三代目に入って、1951年、翌1952年が第二のスタートです。どのような効果があるのかというと、人間の体をまんべんなく動かす事に必要な運動を組み合わせで作られています。しかも健康な体なら負荷も少なく、誰でも手軽

に出来る体操であると。これを毎日続ける事で、加齢や生活の偏りなどが主の原因となる体のきしみを取り除き、人間本来の持っている機能を元の状態に戻して維持する効果があるという事でございます。

ラジオ体操第一というのは、誰でも出来る事をポイントにした体操であり、体全体の筋肉や関節をバランスよく動かす事で、運動強度としてはそんなに強いものではないという事です。ラジオ体操第二は、体を鍛えて筋力を強化する事にポイントを置いていると。だから第一とは効果が違います。所要時間は約3分15秒で、13種類の動作が含まれていて、同じ3分15秒であれば早歩きよりも消費カロリーが大きく、毎日の運動やダイエットに向いていると。わざわざ着替えて歩かなくても、ラジオ体操で充分であるという事でございます。いつやると効果的か、出来るだけ朝行うといいそうです。その理由は覚醒効果が得られる。目を覚ました直後は神経の動きが鈍く、筋肉と神経の伝達も上手く行われていないので、少しでも早く神経の動きを活性化させて血液を筋肉や脳へバランスよく循環させる事が出来れば、体全体が覚醒してきびきびとした動きになります。仮に朝起きたままじっとした状態で過ごすと、覚醒するまでに3時間前かかると言われていて、怪我を防止する為にも是非始めてみましょう。

以上がラジオ体操の歴史と効果であります。私共毎日、職場にもありますが、8時～8時30分の間に全社員が必ずラジオ体操をやって、未然に防止が出来ればと思って活動しております。今、このコロナ禍で改めてそういう事を朝礼で訴えて、皆さまにこういう紙を配ってもう一回認識を改めてもらっているという事を日々やっております。もしご参考になれば、是非始めていただければと思いますので、宜しくお願いします。

幹事報告

幹事 江松 央統さん

1. 10月6日(火)のガバナー公式訪問の会場が、人数の関係で16階のアイリスからボールルームに変わりました。
2. 2021年6月の国際大会に登録をされている方は、事務局までお知らせ下さい。
3. 先日迷惑メールの件をお話したのですが、あの後に不審なメールが来た方がいらっしゃいましたら、開かず捨ててください。事務局からのメールは、表題に事務局発信と付けてありますので、ご確認の上、自衛しながら運用していただければと思いますので宜しくお願い致します。

GONZALES JUALYさんを紹介致します。彼女は現在、愛知県立大学大学院人間発達研究学科の博士課程で学んでおられます。大学で勉強をしながら、ペルーあるいはスペインの子供達に日本の施設で絵本を使った語学教室をされているという事です。7月4日(土)に彼女がやっているボランティア活動を大橋さなえさんと一緒に見学してきました。非常に熱心に勉強だけでなくボランティア活動もやってみえる方です。本日は報告を期待しています。宜しくお願い致します。

■米山奨学生

GONZALES ACHON JUALY YOKO さん

皆さま、こんばんは。愛知県立大学、人間発達研究科のGONZALES JUALYと申します。宜しくお願い致します。本日は私と私が実施しているボランティア事業について紹介したいと思います。こちらは瀬戸市におけるスペイン語教室です。簡単に言うと、このプロジェクトはペルーから来た子供達が自分の母語や自国の文化を学べる所です。スペイン語教室では、読み聞かせやペア読書などの相互的読書活動、オリジナルの本の作成、工作活動などを通して、子供達が楽しみながら母語の読み書きを学ぶ事を目的としています。ここに読み聞かせの様子の写真がありますが、みんなすごく集中して聞いてくれます。



皆さま、ペルーに行った事がありますか?マチュピチュがある所です。ペルーはブラジルの隣なのですが、1990年に日本で移民の法律が改正されました。その時にペルー人とブラジル人は仕事を探す為に日本へ移民しました。その保護者の子供達を、このプロジェクトの対象としています。この子供達の状況をちょっと説明したいと思います。

今、この子供達はダブル環境で生活しています。まず自分の家庭やコミュニティは自分の母語や母文化で育てられ、学校の中、日本文化では日本語で生活しています。この子供達は家庭の中では厳しい状況です。貧困の問題や保護者の学力が低下している事などにより厳しい労働環境で生活しています。更に日本の学校は、モノリンガルとモノカルチャーの学校です。日本の学校なので日本語で勉強していますし、日本の文化で考えている教育ですよね。だからその結果、この子供達は自分のアイデンティティーがよく分からないのです。そしてダブルリミテッドの子供達とよく研究の中で言われています。これはこの子供達は勿論、スペイン語や日本語が話せますが、勉強をする時に日本語の語彙が足りなくて、学習のつまずきがあります。この学習面でのつまずきの結果、自己肯定感の低下がみられます。だからこのスペイン語教室が今年から始まりました。

この教室を通して、子供達が自分のアイデンティティーを考える事になると思います。ダブルリミテッドという言葉は子供達の弱さを見ていますよね。スペイン語は分からない、自分の母語が分からない、日本語もよく分からない。そうではなくて、子供達の可能性を見て欲しいですよね。この子供達はバイリンガルです。スペイン語が分かる、更に日本語も分かりますから、バイリンガルの子供達だから、自信や肯定感を持った方がいいですよね。そしてスペイン語をもっと学べれば、自分の母語で家庭内のコミュニケーションも良くなると思います。

カーミンズという研究者がいるのですが、カナダのトロント大学でスペイン系の移民の子供達について研究しています。この研究者はこの子供達が自分の母語はよく覚えられ、きちんと学べれば、その学んだスキル、能力が他の言語でも使う事が出来ます。日本語でも中国語でも他の言語でも使う事が出来ますから、この教室で子供達がその能力を身に付けて欲しいです。自分の母語をちゃんと学べれば、

学校の学習も良くなると思います。

この子供達は勿論自分の将来の為に色々やっています。この子供達は日本で生まれたので子供達がちゃんと自分の母語を学べれば、日本語も学校で学んでいるため、バイリンガルな人材となると思います。

ここからは、実際にどんな活動をしているのか紹介したいと思います。まずこの教室で話す力と聞く力を身に付けたいです。最初の3ヶ月はずっと子供達のしている事を話しています。語彙を増やす為です。理解力をUPする為に、ゲームや意見交換を通して子供達がスペイン語を学んでいます。手遊びやぬいぐるみを使って音楽のリズムに合わせて遊びながら意見交換を行っています。読む力は子供達に毎週私が本の読み聞かせをします。その読み聞かせに慣れてから、ペア読書や自分で本を読んでいます。子供達は自分の好きな本を持ち帰って、保護者と一緒に家で読んでいます。書く力は子供達が自分の読んだ本に対して、コレクションのようなアルバムを作っています。11月からは子供達が自分のオリジナルの本を作成します。

今の様子ですが、3月に始まる予定でしたが、コロナの影響で6月に始まりました。子供達が楽しく勉強をして、段々と自分の母語を読めて書けるようになっていきます。そして子供達だけでなく他の人も巻き込んでいます。原山小学校の子供なのですが、その原山小学校の先生達もスペイン語教室の話聞いて、私達の行っている教育支援にとっても興味を持ってきて、見学をしに来てくれました。この子供達のお兄ちゃんやお姉ちゃん、外国にルーツを持つ中学生と愛知県立大学の学生もボランティアとして手伝いに来ていただいています。このプロジェクトは家族も積極的に参加しています。先週は保護者との懇談会がありました。来週からは保護者の方が毎週手伝いに来てくれる事になったので、すごく嬉しいです。このプロジェクトは瀬戸市の教育委員会と愛知県立大学の協力でやりたいと思っています。

私だけでなく子供達もロータリーや米山奨学制度に感謝しています。今年、最初、2月位に本をもらいましたが、子供達がその本を楽しく読んでいます。ありがとうございます。



第 1359 回例会 (10月10日)のご案内

秋の家族会 於：長良川鵜飼